

第103回「さんか・さろん」 まとめ

・2021年2月16日(火)

・～伝えたいあの人へ 未来に届く「まごころ」メッセージ～

・塚本英樹さん(アース・デザイン・インターナショナル(株)代表取締役)、奥本英樹さん(福島大学経済経営学類教授)、小松崎いづみさん(中島フレス工業(有)代表取締役)

“「未来型データ個別閲覧システム」(特許第 6651146 号)の Time Pocekt は、モノにデジタル情報 (AR システム) を表示、時間を置いた未来にメッセージを伝えるツール”と、ご案内のあった今回の「さろん」。会員の方が取り組んでいることを少しずつお話いただくという試みでしたが、なかなか専門的な内容で、ご参加の 32 人は一生懸命耳を傾け、想像力を働かせたのでした。

<誕生のきっかけ> 塚本英樹

タイムマシーンで思い出すことは？小学生の時未来の自分へ校庭に Time カプセルとして、何かを埋めたことがある方もおいでは。そのことを少し想像して聞いていただきたい。



私は、リアルな末端の廃棄物の現場に 13 年、廃棄物不法投棄を監視する IT 事

業を 20 年、計 30 年あまりゴミの世界にいた。環境問題に取り組むうえで、ゴミはライフスタイルの結果の未来だ。ライフスタイルが変わらなければゴミ、つまり未来は変わらない。未来とつながりながら今を楽しむ、ライフスタイルがもしできれば、未来を楽しむことが可能ではないか、と考えた。そんな時、福島県での除染事業で福島

大学・奥本英樹教授と出会い強烈な刺激となって Time Pocket が誕生した。

<タイムポケットとは> 塚本英樹

Time Pocket は、過去と今、そして未来をインターネットという軸を使い時空を超え結ぶツール。特定の人や生産者が、未来の大切な人、ユーザーへメッセージを送り、相手の反応により次に伝えるメッセージやギフトのトレース情報を保管し決められた日時に発信するサービス。過去から届く(あらかじめ保管されていた)メッセージは見る側も何が隠されているかわからず、ワクワクしながら過去からのトレース上に保管されたメッセージ、AR、動画、ギフトを楽しみながら過去とのサプライズコミュニケーションが可能となっている。

過去からのメッセージとコミュニケーションが取れることでゲーム性を秘めており、人や地域、生産者の過去の情報を風化させず、飽きずに楽しむ事が可能だ。

※ AR とは「Augmented Reality」の略で、一般的に「拡張現実」と訳される。



Time Pocket は、基本スマートフォンでアプリとしてダウンロードすれば使用可能。未来の特定者に送るメッセージはクラウド上で安全に管理される。未来へ贈るギフトはNTT 東日本グループにて、厳重に 1000 年先までも保管できる体制を確立した。

<タイムポケットの展開例 地方自治体の活性化の一端を担う> 奥本英樹

塚本さんと共同経営者としてブルーオーシャン&カンパニーという会社を運営。



東日本大震災が起こった当時、研究での専門分野以外に南相馬市を中心に海を活用したまちづ

くり活動をやっていた。震災で津波等の被害も大きかったが、ダメージを受けたのは福島第一原発事故。どうやってこの福島を取り戻そう、と。

汚染されてしまった福島の県土、これを取り戻すしかない、除染をするしかない、ということ仲間たちと話していた。除染作業は、表面の土、草、落ち葉を薄くとっていく地味な作業。福島の本当の問題は何だろうと除染をしながら考えた。そしてそれは「分断」だと思った。

■福島で起きた「分断」

当時、同心円状に警戒区域や避難区域が分けられ、それによって家庭が受け取る賠償金の額が違った。会社や学校で「あその家はお金もらったらしい」といった会話が、地域で分断が起きた。当時の市長が「南相馬の子供たちが、こんなことを口にするなんてことは絶対になかった」と悲しそうに話していた。また放射線に対する考え方も違うために、言い争いが起きた。結果これらがコミュニティの分断をもたらした。分断というものが東日本大震災で福島が経験した一番大きな問題だった。

これは決して福島だけではなくて、おそらく今後日本、世界で起こる問題だ。東日

本大震災と原発の事故によって福島は、内在されていた現代社会の問題が少し早く顕在化したのだろうと思った。実際にいろいろなところや分野で様々なレベルの分断が起きている。この分断を修復していかなくてはコミュニティがよくなる。どう修復できるか。

■分断を修復するのは人の「思い」

ボランティアによる除染活動でわかったことは、地域の人たちを思う気持ち、なんとか大切にしたい、復興の手伝いをしたいという思いが人を動かして分断を修復していくことだ。最初は「若い連中が入ってきて何者だ」って感じだったのが、地域の人々が徐々に炊き出しを手伝ってくれたり、自分の田んぼも除染してほしいと言ってくれたり。だんだんコミュニティが修復されていった。

本当はボランティアをした時の思いをその地域の人たちにもっと伝えたかったし、地域の人たちもボランティアへ感謝の言葉をいいたかった。その両方の思いを残してアーカイブしたかったができなかった。当時小学生だった子供たちが6年経って、「ボランティアの人たち、もう私たちのこと忘れてるよね」話していた。「いやそんなことないよ」と自分は言ったが、そういうお互いのメッセージを届けたいと思っていた。もしこのTime Pocketがあれば、そういうことができた。

第3章 TimePocketの展開例 ～地方自治体の活性化の一端を担う～

ボランティアによる除染活動が教えてくれたこと



「思い」が人を動かし、様々な「分断」を修復する

■Time Pocket なら想いを伝えられる

事例①ふるさと納税

ふるさと納税は聞こえはいいが、「返礼品が安く買えるよね」という感じになっている。納税の主旨がゆがめられてしまっている。しかし、Time Pocket を使えば、例えば納税するときに「あなたたちの地域を応援しますよ」というメッセージを送る、それが生産者にサプライズで届く、さらには生産者からその返礼品が届いたときに、その返礼品にスマホをかざすと Time Pocket の仕組みで、例えば福島だと「この桃はこういうところで、こういう風に丁寧に育てました、美味しく召し上がってください」というようなメッセージが届く。

それは「もの」だけでなくその先にある「人」に想いが馳せられることになり、本来の意味でのふるさと納税の主旨、「ふるさとを応援する」ということに繋がっていく。

事例②廃校

その学校の最後の在校生が校歌を歌って、その合唱している動画をその学校の卒業生に学校や自治体と協力して届ける。そうすると、「あんなほど、自分が卒業した学校は今こういう風になっているんだ」と気づく。今、廃校の活用では社会教育施設、体験交流施設、宿泊施設などが多いが、「じゃあ、今度行ってみよう」という風に繋がるかもしれない。

事例③味の伝承

例えば、孫や子供に地域の味、伝統料理を伝えたいと思っている、けれども子供がまだ5歳だとか、東京で一人暮らしをしているとかで今、伝えられない。そういうとき、例えば割烹着が東京で暮らしている子供の20歳の誕生日に突然届く。届いた割烹

着にスマホをかざすと、おばあちゃんとかお母さんが昔作っていた料理、作っている動画がARとして出てくる。そうすると、「うちってこういう料理作っていたよね。子供のころ食べた」と思い出す。

今、地域の小さな味噌・醤油屋さんも潰れている。入手できなくなっている。しかし、Time Pocket の仕組みを使うと「今度地元のこの醤油を取り寄せよう」、「今度これ使って料理してみよう」というように、地域の伝統料理、食材、いろいろなものが守られていく。

タイムポケットが強力なツールとして使えるのではないかと思う。

<タイムポケット活用例 おくり鳩と連携 感謝の気持ちと心の絆を伝える>

小松崎いずみ



当社の「おくり鳩®」は不織布を鳩の形に折ったもので、広げるとなかにメッ

ッセージを書けるようになっている。この形状記憶加工技術は、渋沢栄一ビジネス大賞テクノロジー部門特別賞を受賞している。

（おくり鳩®は放鳥の儀を伝承）おくり鳩®に送る言葉を書き、故人のお見送りに利用いただき全国の葬儀社様で使われている。

葬儀業界の現状は家族葬が主流となり、コロナの影響で直葬も増加傾向にある。

※自宅から参列ができる「オンライン葬儀の実態」新型コロナウイルスが収束しても普及し続けるのか？東洋経済 on-line 葬送ジャーナリスト：塚本優さんの記事から葬儀業界の今後の動向も紹介。

※5分間 Time Pocket × おくり鳩®動画紹介。

ここでは主人公の女性が亡くなる前に Time pocket にメッセージとおくり鳩®を預けており、女性が亡くなった病院で娘が Time pocket のボタンをクリックすると、システムが作動し娘や主人におくり鳩®とメッセージが届き、おくり鳩®で最期のお見送りをしてもらうことが出来るというもの。女性の AR も現れ、仮想現実とのコミュニケーションが計れる。

東京ビックサイトで開催されたエンディング産業展でデジタル研究者から、「AR を活用したテクノロジー技術とモノづくり商品との融合で、デジタルが人間の心を繋げる新しい仕組みを確立させたビジネスモデルだ」と認められた。



障がい者の子供をもつ（一社）親なきこと代表理事、藤井奈緒さんに Time pocket の仕組みを伝えると、「亡くなったあとではなく生きているうちに使った方が子供たちに喜んでもらえる」と。子供の誕生日などお祝い事で使ってみたいという提案をいただきピンク・ブルー・イエローのカラーの鳩を制作。色とりどりの鳩をマーカーに藤井奈緒さんが AR となって、子供たちにお祝いの言葉を伝えるというやり方の準備を進めている。

<Time Pocket の強み、他社との相違点、料金等>塚本英樹

他の SNS と違うのは、現存する SNS のように広く浅く他人へ、競い合う事も含め、情報をただばら撒くのではなく、本当に伝えたいことを特定の人にまごころをピンポイントで、時間をずらし、未来へ贈ることができること。今を、未来に向けて贈る仕組み、それが Time Pocket だといえる。全ての製品、地域、人々にはそれぞれのストーリーがありそれぞれの伝えたいことがある。今と未来と過去がひとつの線となり、時空を超え共有できるコミュニケーションツールとなりうるはずだ。

NTT 東日本グループ会社と提携し、1000 年先まで預かるサービスを考えている。料金は、データ送信一回 10 円から、品物を預かる場合、月 2 円から安価で預かることが可能。未来を楽しむ人がいなければ、過去から楽しいメッセージやギフトは届かない。今と未来と過去を楽しめるツールとなれるよう頑張っている。

第2章 TimePocketとは ~未来型データ個別履歴システム~



保存に関してはパートナー企業と組み
特定者に未来の指定日へと確実にお届けします



動画・音声・写真



AR



物品



データや物品などの保存は、NTT東日本グループ会社と提携
世界初となる、1000年先まで保存可能
依頼者が指定した日に、受信者にデータ・ギフトを送信

2020年8月7日 業務委託契約 調印済
Copyright © 2021 BlueOcean&Company Corp. All Rights Reserved.

【質疑】

●感想・質問【】内は居住地、○答え、()内は回答者

●塚本さんとの出会いはNTT 東日本グループで排出される産業廃棄物を適正に管理する仕組み、不法投棄を仰止する産業廃棄物画像追跡システムと一緒に 20 年前に開発した際だ。今回の新しい事業を進めるにあたり、未来に安全・安心にギフト等を預かる会社が必須であり、お客様からの大切な



品物を万全なセキュリティ管理のなか、お預かりできるNTTグループ会社を紹介した。「東日

本大震災・原子力災害伝承館」も関連性があるので是非一緒にとっている。これからのサービスなので色々アイデアをいただいでやっていくと良い。【東京都】

●Time Pocket の特許のキモ、ポイントは？小学生でもわかるよう説明が欲しい。伝承館、新しい姿を現すためにTime Pocket を利用できるのではないか。【神奈川県】

○遺言を残した場合、その言葉以外にデジタル情報が残せる。デジタル情報に質問情報を入れその答えによって返信される情報が変わる。(塚本)

○震災の記憶を風化させないために伝承館が造られているが賛否ある。残したくない、見たくない人もいる。ただ陳列するだけ、とも思われる。Time pocket を使えば必要と思っている人のみが見ることができるだろう。(奥本)

●おくり鳩は葬儀だけでなくお祝いなどのカテゴリでも使えるのか？AI (AR) で亡

くなった方とコミュニケーションできるのか？【東京都】

○販売パートナーとして契約してどこでも購入できるようにする。いずれ携帯で申込出来るようにシステムができあがってくると思う。お祝い用でカラーの贈り鳩を作った。(小松崎)

○過去の方と会話ができる SNS である、美空ひばり AI とは全く違う。本当に伝えたいことを伝えたい方にピンポイントで返答することのコンテンツを考えておく必要がある。(塚本)

●未来に向かって品物を贈る、はわかる。アンサー機能は一問一答で終わってしまうのではないか。おくり鳩は物品を預かるとして、亡くなる直前の方が財産を金の延べ棒にして 10 年後に届いてしまう可能性はないか。【東京都】

○どのくらいのコミュニケーションが継続できるかはコンテンツ作りが重要になってくる。金の延べ棒についてはリスク回避していく。(塚本)

●親が 70 歳の時どう思っていたのか、とか知りたいと思う。その時間差を埋めるメッセージとしては面白い。企業の持続性が限界にならないか？企業の盛衰が激しいなか、存続性についてはどうか。【三重県】

○システムが認知されると、システムは誰かに引き継がれていくと思う。発明された企業がなくなっても社会で残っていく普遍性のあるシステムを目指したい。(奥本)



●日本は先を想像する力が欠けていると思う。想像力を掻き立てる考え方、夢

があって良い。ある地域で毎年 100 年後の子供達へとメッセージを続けていくと地域の伝承が続いていく。女性は夢を語れるので発想を女性たちから聞くといい。【東京都】

● 昨年のエンディング産業展で見せていただいている。地域活性化、プライベート色々なことに展開が出来ると思った。【千葉県】

● Time pocket ではなく「未来への伝言」とか分かりやすい言葉が良いのではないか。

【神奈川県】

● 商店街の写真展とか隣の街ではスケッチになっているものが予約で売れている、未来へのメッセージとして 30 年 40 年先へと今のうちから仕込んでおくと、地域の歴史が残せると思う。【静岡県掛川市】

● はじめて Time pocket × おくり鳩®の動画を見せてもらったときにピカソの《科学と慈愛》の絵を思い出した。(東京都)

● 1000 年後人類がいなくなってしまうかもしれないのに、相手を特定して届けるというのは NTT の仕組みで本当に可能なのか？ 1000 年先も前払いなのか？

● 分かりにくいというのは、いままでなかったものだからだ。生まれたばかりだからスローライフで育てていこう。どんな肥料をあたえていくのか、スローライフ学会の腕の見せ所だ。【東京都】

● 素晴らしかった。可能性をすごく見せてもらった。『風の電話』映画になった岩手県大槌町、電話ボックスに行って自分の気持ちを伝えたい人へ風の電話で話を伝えるというのを思い出した。【東京都】

.....
新しい技術はなかなか言葉で説明してもわかりにくいものです、早く使えるようになるといい、とつくづく思う「さろん」でした。

(まとめ：塚本英樹、事務局・小松崎いずみ・野口智子)

